



ShikataTown

じか

広報

祝 志賀町成人式祝賀パーティー

INDEX

成人式	2
志賀町教育町就任のごあいさつ	3～4
税務課からのお知らせ	5～7
まちかどルポ	10～11
情報パーク	13～15
生涯学習だより	16～17

2010

2 月号
February
No.54

平成二十二年

成人式

今日からオトナ!!!

221人が晴れの成人式を迎える

平成22年志賀町成人式は、1月10日(日)に能登ロイヤルホテルで行われました。今年成人を迎えたのは、平成元年4月2日から平成2年4月1日生まれの男性103人、女性118人の221人で、式には198人が出席しました。

式典では、小泉町長が「これまで育ててくれた両親へ感謝の気持ちを忘れず、一瞬一瞬の時間を大切にし、社会のために役立つ人になってください」と新成人へのはなむけの言葉を贈り、

石田県議、戸坂議長が祝辞を述べ、志賀町青年団協議会の福田会長がメッセージを贈りました。

新成人を代表して、竹津はるなさんに記念品が贈呈され、畑中健志さんが謝辞を述べました。
また、星野政良さん、新谷絵美さんが二十歳の決議として誓いの言葉を述べ

べました。

式典の後、パーティも行われ、穴田教育長が「自分の命を大切に志を高くこれからもがんばってください。そして、二十歳になった特権である選挙権行使して投票に行ってください」と話しました。

新成人たちは、久しぶりに再会した喜びや昔話で盛り上がりました。





志賀町教育長 穴田 實 Anata Minoru

経歴：71年関東学院大卒、ソニー販売(株)入社、89年(株)白山エレクトクスを経て石川労働局(ハローワーク羽咋)平成15年度から志賀町教育委員志賀町牛ヶ首出身 昭和23年生 61歳

教育のちから

私は、若者は義務教育を終えて希望する高等教育を修了したあとは、「なるべく早く自立し、一人ひとりが自分の生き方を選択して、社会の中で生きていく力を備えるのが良いのではないか」と考えております。

日本では以前からほぼ高校全入となっており、大学や短大・専門学校への進学率も高いレベルにあります。

しかし、今日の社会状況を見ますと、規範意識の低下はいまやわれわれの身近にもあふれており、また、殺伐とした事件が後を絶たないことはニュース報道で、毎日のように目に入ってきます。

このような社会現象が世の中にまん延し、生じているような歪みを修正するために、社会全体での決意と継続的な努力が必要だと思えます。「総論賛成だが、自分はあるべくやりたくない」というような思考では変わるはずありません。

私たちは、社会全体を見渡して判断することも必要ですが、まず、もともと身近な地域社会の単位である《志賀町》から、そして担当する教育の分野から始められることを考え、提案して行きたいと考えております。

教育によって、人は大きく変わる可能性を秘めております。教育には、親の教

育、家庭での教育、地域での教育、学校教育、企業での教育など多岐にわたっておりますが、それぞれが自分の役割を果たすことが必要です。数少ない子や孫を慈しみ大切に育てたいと願うのは人情です。

以前に勤務していたハローワークで多くの若者と接して来ました。その経験からすると、「仕事選びは自分の生き方の選択に大きく影響を及ぼし、自分の人生を左右するくらい重要な選択の一つ」です。世の中には何千種類もの職業があると言われ、分類のしかたによつては何万種類にもなると言われておりますが、いろいろな考え方の人がいるからこそ、それぞれの職業が成り立つとも言えます。

現在は業種や職種によって多少異なるとはいえ、雇う側の立場でみれば相当厳しい判断で欲しい人材を選べる、買手市場の状況にあると言えます。

このような状況の中で、幼少時に家庭でのしつけを受けていなかった二十歳前後の若い世代の方々にとって、再就職は極めて厳しい現実と直面しています。現状の経済情勢が相当好転し、「誰でも良から人手が欲しい」と言われるくらいに経済が回復しないと厳しい状況が当然続くことが予想されます。

「企業は即戦力の人材を求めている」と言われますが、その内容を分析して

就任のごあいさつ

この度、志賀町教育委員会においてご指名をいただき、教育長の職務に就任させて頂くことになりました。重責を担わせて頂くこととなり、身の引き締まる思いとともに、はなはだ微力ながら誠心誠意努めさせて頂く所存でございます。よろしくお願い申し上げます。

さて、いつの時代でも、人は地域において、また、国家にとつても宝であることは変わりません。そして、人を育むのは優れた教育であり、教育は人づくりの礎であります。

特に今日のように、価値観の多様化がもたらす複雑な社会情勢のなかでは、教育の担う役割はますます重く、大きくなりつつあると感じております。従来の教育行政に加えて「新たな視点から捉えた、志賀町の教育に期待している」との励ましのお言葉を多数の方々から賜り、責任の重さを痛感致しております。

志賀町の子供たちが健やかに伸び伸びと成長し、自分自身を大切にすると同時に他者との共生も必然のこととし、社会とかかわりに目を向けて豊かな地域社会づくりに貢献をされることを願っています。

保護者の皆さま、学校、地域の方々すべてにご協力をお願いして教育行政を推進してまいりたいと考えております。



ますと、仕事の技術も大切ですが、まず『社会人としてのルールやマナーなど社会常識を身に付けている人』を採用したい、この企業メッセージを強く感じます。基本を身につけていない方は、早急に必要なスキル（技術）を身に付けることが先決です。これがない状態ではどこを希望しても書類選考の段階でふるいにかげられ、残れないことになりかねません。新卒者を大量に採用し、各企業が自社のカラーに合うように年月をかけて育て上げる時代は、すでにはるか過去のものとなりつつあります。

一人の人間として

「幸福に暮らしたい」

年代によって多少感じ方にニュアンスの違いはあるかもしれませんが、大概の人はこう願っているのではないのでしょうか。

では、人はどういう状況の時に幸福と感じるのでしょうか。大変難しいテーマですが、つぎの点で考えてみたいと思います。

自分で就きたい仕事を選び、自由に行動できて生活を楽しみ、他者からあまり束縛されずに生活が成り立てば何となく幸福感の一端を感じられるのではないのでしょうか。

しかし、現実の世の中は悲観的になるほどのことはありませんが、昨年のように前年の好景気があつと言う間もなく世界不況に巻き込まれて行くほど悪い部分も内に秘めており、ある程度の自己防衛は必要です。

サブプライム・ローン問題やその影響で、高校、短大・専門学校、大学の新卒業生の就職率に多大なしわ寄せが来てしまったことはご承知のとおりです。若い方々が将来に希望が持てないような世の中は、早急に軌道修正が行われなければなりません。



公私相半ばする

求められる人間像は時代とともに変化していくものでしょう。

今、私たちに求められているのは、自分を大切にするとともに、家庭、友人、地域社会との関わりも重視する「公私相半ばする人間の育成」であると考えております。

自分と社会との良好な関係を構築できる若者こそが地域、国家そして世界平和のための力強い貢献が期待されるのではないのでしょうか。

まず、身近なところから始めましょう。家族の間での挨拶運動、早寝早起き朝ご

志賀高校について

はん、身障者用の駐車スペースには絶対に止めない等々、家族でテーマを決めて大人がきちんと守ることが子どもたちのしつけの第一歩につながります。

少子化のあおりを受け、県立高校も再編の波をまともに受けております。志賀町でも、志賀高校に再編されたことはご存知のとおりです。

志賀高校は町内唯一の存続高校としてスタートしましたが、振興・存続は町をあげての課題であり、生徒数の確保は必要条件となっております。同校も本年は開校二年目を迎え、基礎固めの大変重要な時期にあり、校長先生をはじめ熱心にご指導いただいております、二年後の第一期の卒業生の躍進が期待される状況にあります。

志賀町と致しましても同校の開校時より県・県教育委員会に働きかけ、振興に力を注ぎ、新年度も志賀高校振興のために物心両面からサポートしてまいります。

町民の皆さまにおかれましては、ぜひ志賀高校を「わが町の高校」とのご認識をいただき、地域各界こそってご支援を頂きますよう、よろしくごお願い申し上げます。